令和2年度　江戸川区立船堀小学校　学校関係者評価　報告書

学校教育目標	よく考えすすんで学ぶ子　思いやりがある心豊かな子 さいごまでやりぬく子　たくましくじょうぶな子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	確かな学力とあたたかい心、地域を愛し次の時代を担う意識を高くもち、夢や希望を育てる学校 すすんで学び、共に認め合い、めあてをもって粘り強くやり遂げ、未来に向かって歩む児童 深い児童理解のもと、児童の成長を信じ、主体的に考え研鑽し課題意識をもって積極的にかかわる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞スポーツ選手や様々な分野の専門家を招き、出前授業として各学年で実施したことにより、児童がそれぞれの分野に関心をもち、自分の可能性を考えることができた。 ＜課題＞相談体制の充実による児童理解・保護者理解および特別支援教室（エンカレッジルーム）の理解の推進。通常の学級での特別支援教育の推進。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携教育プログラム実施の確認と改善	連携教育プログラム実施の確認を、文書と交流時に行う。	B	B	感染症対策の影響で、今年度は学校間の直接の交流はできなかったが、各校で連携教育プログラムに即した教育活動を行った。	B	小学校と中学校の連携は、児童生徒の健やかな成長にとって重要なことなので、これからも充実した取組にしてほしい。	連携プログラムの見直しとともに、小中で課題を出し合い、9年間を見通した教育活動につなげる。
	外部人材を活用した体験的な学習の充実	様々な分野の専門家による出前授業の実施や校外学習などにより、児童の興味関心を高める。	学級ごとに、様々な分野の専門家による広く深い学びを得る機会や体験をする機会をつくる。	10月より、各学年で年間1回以上の出前授業の実施。 児童保護者ｱﾝｹｰﾄ90％以上	B	B	muchuによるリズムダンス、サッカー、フライングディスク、バスケットボール、陸上教室などの実施や、移動水族館、味覚授業、そろばん教室、狂言、租税教室、薬物乱用防止教室など、各学年の発達段階に応じてゲストティーチャーによる特別授業を行った。	A	年間を通して、それぞれの学年の児童の実態に応じた、様々な種類の出前授業を行っていて、児童の成長につながっているものと考える。将来のことを考えるきっかけになればと思う。	今年度取り組んだ体験型学習の中で、児童にとって有意義であった学習は、次年度の学年にも引き継ぎ、来年度も続けて実施していけるようにする。
	たてわり「なかよし班」での活動の工夫	工夫した取り組みを通して、思いやりの心と行動ができるようになる。	なかよし班での小さな取り組みを行う。	取組は10月より月1回実施。 児童保護者ｱﾝｹｰﾄ90％以上	A	A	今年度の状況の中で、できる限りのことを行った。本校の特色でもあるので、今後も可能な範囲で実施する。	A	本校の特色の1つでもあり、子供たちも喜んで参加しているので、継続して取り組んでほしい。	できる範囲で思いやりの心と行動ができる取り組みを計画していく。
	保護者・地域に向けた教育活動の積極的な発信	学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ、学校だより、学年・専科だより。手紙、道徳授業地区公開講座、学校保健委員会、個人面談等で発信	学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ、学校だより、学年・専科だより。手紙、道徳授業地区公開講座、学校保健委員会、個人面談等で発信	学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ毎週更新。学校だより学年専科だより等月一回。道徳・学校保健(状況に応じる)。地域保護者ｱﾝｹｰﾄ80%以上	B	B	学校ホームページでは、各学年の様子や給食等について、毎週、学校日記を更新することができた。	A	ホームページは、保護者も地域も注目しているので、引き続き充実を図ってほしい。	ホームページのトップページの分類等を工夫し、情報を更に見やすいように改善していく。
	思いやりのある児童の育成	相手を尊重する友達への言葉かけや行動ができる	あたたかい言葉や行動ができるふれあい月間､授業など実施	児童アンケート80％以上 教職員による観察	B	B	ふれあい月間において、学校全体で「思いやりカード」を実施した。	B	相手への思いやりを、引き続きぜひ学校でも教えてほしい。	挨拶の取組を充実を図るように計画していく。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上。	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ学習、電子黒板操作を効果的に行う。計画的授業	毎日、ICT機器を活用する。 ICT研修年3回。授業実施	B	B	プログラミング学習の充実のための職員研修を実施できた。	A	1人1台のパソコンが導入されるので、有効に活用してほしい。	授業実践例などの実践形式の研修を行う。
	特別支援教育の推進	校内委員会（特別支援教育委員会）の充実を図ることなどによる指導・支援の充実	特別支援教育コーディネーターを中心とする児童の特性に応じた指導や支援、適切な対応の方策の向上。	特別支援教育研修（児童理解の会を含む）年3回以上の実施。個に応じる対応策増加。個別指導計画の充実。	B	B	外部講師による通常の学級における特別支援教育についての研修。 心理士の巡回指導に伴う、特別支援教育コーディネーターの役割が明確になり、準備とフィードバックが定着した。	A	障害を持っている児童と健常の児童がお互いに認め合って学校生活を送ってほしい。差別などがないようにしてほしい。	活用例や実践例などを更に提案をしていくようにする。
		あすなろ学級、特別支援教室、副籍交流の理解と啓発	あすなろ学級、ｴﾝｶﾚｯｼﾞﾙｰﾑ（特別支援教室やまぶきﾙｰﾑ）、副籍交流の理解	特別支援教室の理解教育実施、たより、HP等での紹介、保護者ｱﾝｹｰﾄ80％以上	B	B	特別支援教室の教員による、学級への理解教育を実施した。	A	今後もさらに特別支援教育への児童の理解を深めてほしい。	今年度から始まった取組なので、来年度も継続的に行い充実を図る。
	児童理解による適切な対応	Q-Uテストを生かした学級経営	実施後の結果分析による学級経営の見直し	要支援群の減少と満足群の向上、児童アンケート90％以上	B	B	・要支援群を明らかにし具体的な取組を考え対応した。	B	児童にとっては、自分が所属するクラスは生活の大部分を占めており、大きな意味をもつので、安心して過ごせる環境にしてほしい。	ハイパーQUを年1回実施し、より専門的な分析結果をもとに学級経営に活用できるようにする。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	わかる・楽しい・もっとやりたい授業の展開と個に応じる指導の実施 年間を通して補習を2年生以上実施。1年生は2学期後半以降実施	授業のﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ化（授業の流れの提示、視覚的な提示、わかりやすい発問）と、個に応じる指導の実施。 木曜放課後に各学級において担任や専科教諭にて補習を実施 毎回の授業で、船堀小学習スタンダードと学力向上ﾌﾟﾗﾝの授業での実施	B	B	授業のユニバーサルデザイン化を目指した視覚的な掲示物を各学年の発達段階に作成し、どのクラスでも活用した。また、校内研究を通して、学校全体で「分かる授業」を目指して取り組み、その都度、授業改善を行った。 木曜日放課後の補習教室を利用して個別指導を行い、個々の学力向上を目指して、担任と専科教諭と共に取り組んだ。 船堀小スタンダードのスリム化を図り、児童にとってより分かりやすいものとなった。	B	継続して補習を実施することで、学力の向上が図れるため、今後も引き続き取り組んでほしい。	児童の学力向上を目指し、校内研究や職員間での研修等を通して、児童にとっての「分かる授業」づくりに引き続き取り組んでいく。 補習教室や朝学習などの時間を確保し、全体の学力の底上げに取り組む。

	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学びの充実 学校図書館を使った授業の充実	図書を活用した授業の実践による、調べ学習の成果。 計画的な学校図書館の利用	探求的な活動による全員の成果物 図書館の活用年間10回以上。	A	A	図書資料の充実に向けて、整備を行った。 コロナのために十分な時間の確保ができない中、各学年とも読書科ノートの活用や年間計画を基にした探究的学習など、できる範囲で学習を進めた。 夏休みに必要な時間が確保できず、図書館を使った調べる学習コンクールに全員ではなく、希望者の参加となった。	B	図書館の整備を引き続き行い、読書をする環境を豊かにしてほしい。 調べ学習コンクールや科学展に積極的に参加をして、豊かな学びを与えてほしい。	図書館整備ボランティアの手を借りることができない状況でも、SSSや介助員とともに整備を進める。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	教員が一緒に休み時間に遊ぶことで密にならない運動遊びの仕方を理解させ、その後につなげる。 学級運動遊びを毎週実施する。	1学期は、毎回、教員が一緒に休み時間に遊ぶ。 2学期以降は毎週の学級ごとの運動遊びを行う。 児童アンケート90％以上。	A	B	教員が遊び方を指導をした結果、意識させることができた。	B	昔と比べ、子供たちは体を使って元気に遊ぶ機会が減っている中で、学校として体力向上に取り組んでいることはとても良いことだと感じる。継続してほしい。	体力向上を図るための体育科の学習の充実 休み時間の運動遊びの工夫と充実および運動遊びについての実技研修
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	年間計画に基づいたオリパラ教育の実施	毎月のオリパラ給食の実施。発表やｵﾘﾊﾟﾗｺｰﾅｰ等の展示	B	B	コロナ禍であったが、できる範囲での活動を行った。	B	オリパラが実施されれば、観覧も予定されているので、これまでの取組のまとめとして、子供たちの意欲をさらに高めてほしい。	年間指導計画に基づいて、来年度のオリパラ教育の方向性を出し、レガシーとして今後も継続して実施していくものを残す。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	英語専科とALTとの連携による年間計画に沿った授業展開	外国語の授業での積極的な参加95％以上	B	B	専科教員の配置により、3年～6年まで系統的に学習指導を行うことができた。中学年は95％以上の児童の積極的な参加が見られたが、学習が難しくなる高学年では80％程度となった。児童の理解度に応じて、授業改善に取り組んでいく。	A	小学校の英語学習が必修化になったので、ALTの力を借りながら、充実した学習にしてほしい。	学年に応じた目標を明確にし、継続的な指導を行っていく。 児童の意欲的な学習参加を目指して、授業改善に取り組んでいく。
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・変化をとらえて、学年・組織対応早めの対応。ふれあい月間ｱﾝｹｰﾄの活用	いじめ授業の実施。SNSルールを用いた指導。ふれあい月間の取組での児童面談にててていねいに聞き取る。児童アンケート80%以上	A	B	いじめ授業の実施100％。 親切、思いやり、友情、信頼、相互理解、公正、公平など、道徳の授業を通して、いじめについての授業を実施。 ふれあいｱﾝｹｰﾄの結果で「ある」と答えた児童に一人一人詳細を聞き取った。	A	最近の事件などを見ると、SNSに関わる事例が多く見られるので、ルールを用いた指導を今後も積み重ねてほしい。	いじめ防止年間計画をもとに、各教科においても指導ができるように計画を立てて取組むようにする。
	食育の推進	安全に給食を行い、食の幅を広げ、季節感を感じ、食への関心を高める。	・コロナ感染防止対応の給食の仕方の徹底 ・季節感や文化を感じさせる給食の提供や講話。 ・食育年間計画に基づいた実施	・安全な提供と給食指導の徹底と定着。 ・毎月の郷土料理や外国の料理の提供と説明。講話等の実施。 ・味覚の授業実施。	A	A	区の方針に合わせた、コロナ感染症対応の給食指導を実施、継続中。 オリパラ給食の実施と資料の提供、給食委員会による給食の放送を実施。 旬の食材を使った献立作成、小松菜給食、和食の日、和牛肉給食等の実施。	A	昔と比べ、種類や栄養が豊かな給食を提供しているので、子供たちは喜んでいると思う。今後も給食の充実をお願いしたい。	コロナが収束したら、ランチルームを使用した食育にも取り組んでいく。
地域・保護者との共働・連携	全教職員による相談体制	保護者・地域が学校の誰にでも相談できることを理解して、困ったときに相談できる体制づくり	相談による問題解決 教師や保護者が、SC、巡回指導教員、特別支援教室専門員、心理士との連携。 保護者と教職員の面談	巡回指導教員、専門員、心理士、SCの情報共有。面談実施。 全教職員による個人面談の実施。児童保護者アンケート80％以上。	A	B	スクールカウンセラーへの保護者の相談が増加した。 スクールカウンセラーや心理士による児童の観察依頼を行い、多面的な情報により対応を練ることが増加した。	A	保護者や子供の中には、様々な悩みなどを抱えている場合もあると思うので、誰にでも気軽に相談できる体制づくりをお願いしたい。	保護者・教員・カウンセラーとの連携が更に充実するように研修等を行う。
	保護者・地域に向けた教育活動の積極的な発信	学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ、学校だより、学年・専科だより。手紙、道徳授業地区公開講座、学校保健委員会、保護者会等で発信	学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ、学校だより、学年・専科だより。手紙、道徳授業地区公開講座、学校保健委員会、保護者会等で発信	学校ホームページ毎週更新。学校だより・学年専科だより、給食だより、保健だより等、月一回。道徳・学校保健各1回。地域保護者ｱﾝｹｰﾄ80%以上	B	B	学校ホームページでは、各学年の様子や給食等について、毎週、学校日記を更新することができた。	A	ホームページは、保護者も地域も注目しているので、引き続き充実を図ってほしい。	ホームページのトップページの分類等を工夫し、情報を更に見やすいように改善していく。
その他	働き方改革	会議時間の短縮。校務分掌の標準化。 週計画に基づく教育活動	3つの校務分掌グループによる会議の設定のしやすさと効率化を図り、児童と向き合う時間を生み出す。	会議45分以内。C4thの活用。 学年・分掌等での分担。	B	B	3つのグループにしたことで、会議の効率化につながった。 C4thの活用をさらに進め、時間を有効に使えるように計画を立てる。	B	働き方改革は時代の要請なので、学校でも積極的に取り組んでほしい。 電話の自動対応や、定時退勤日の設定などはよい取組であるので、こうしたことをさらに増やしてほしい。	校務分掌の見直しを行い、業務の偏りを減らす。 C4thを活用し、会議の回数減と情報の共有化・紙資料削減を進める。